

V ユニバーサルデザインの視点をふまえた 指導案への記載例

1 指導案に示す支援の書き方のポイント・・・P48～P49

(1)国語 中学1年「オツベルと象」

(2)道徳 中学1年「健二の迷い」

2 展開部分の記載例・・・・・・・・・・P50～P53

(1)国語 小学4年「ごんぎつね」

(2)算数 小学3年「三角形」

(3)家庭科 小学5年「元気な毎日と食べ物」

V ユニバーサルデザインの視点をふまえた指導案への記載例

研究協力校の指導案を基に、支援の書き方のポイントや展開の部分にどのように示しているか紹介します。

※ 情-(1)-(7) の表記は、【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】(P8, 9)の視点-支援の目的-工夫の例を示しています。

1 指導案に示す支援の書き方のポイント

(1) 国語 中学1年「オツベルと象」

①生徒の実態

(略) 中学校生活にも慣れ、授業のルールも定着してきた。発問に対して積極的に発表し、自分の意見を述べる生徒が多くいる。しかし、中には自分の意見はあるが自信がもてず、発表に対して消極的になってしまう生徒もいる。生徒たちが自信をもって課題に取り組めるよう、個々に応じて必要な支援をしていきたい。そこで、本教材では生徒全員が「わかる」授業を目指してユニバーサルデザインを取り入れていきたい。具体的にはペアや班で話し合い活動を行わせ、意見を共有し合い、発表できるシステムを使っていく。(.....はユニバーサルデザインの視点)

②本時の指導

展開(抜粋)

過程	学習内容と学習活動	○支援 ◇評価
見出す	○本時の問題を確認する。 白象は助かったのに、なぜ「寂しく笑った」のだろうか。考えよう。	○前時の内容「白象の手紙の内容」について確認する。 ○まず、個人で考え、10分後に4人班にし、話し合う等の説明をする。
調べる	○白象が寂しく笑った理由を個人で考える。その後、4人で話し合う。	
深める	○話し合ったことを踏まえ、班で出た答えを発表する。	◇話し合った内容を理解し、自分の考えをまとめている。
まとめあげる	○各班の発表を聞き、もう一度個人で考える。	

・全校統一で、学習課題等を青のチョークで囲います。情-(1)-(7)

・付けたい力に到達するために絞った学習内容になるようにしています。情-(3)-(1)

・必要に応じて、資料集や写真を参考にします。情-(3)-(7)
※写真に頼らず想像できる生徒には、情報の与え過ぎに配慮します。

・4人班は、意見を言いやすく、学習を深めるのに効果的です。例27(P38) 学-(1)-(7)
・班活動では、動きを交えて話し合うことを勧めます。情-(3)-(エ)

・生徒の発言に関わって、その内容や意味を他の生徒に問い返し、全員参加や全員の理解を促します。学-(1)-(イ)

※指導案も見やすい書体を使っています。

(2) 道徳 中学1年「健二の迷い」

①生徒の実態

(略)

入学当初から、道徳の授業については「互いの気持ちを学ぶ時間だ」という思いで授業を行ってきた。現在は、意思表示をする名札やその判断理由を書いた付箋を黒板に示すことで、互いの考えを知ることに重きを置いている。ようやく、自分の考えを発表しても大丈夫なのだとわかってきているところである。本資料も、親友との間の正義について意見が分かると予想されるが、互いの意見を聞いて判断力を養っていききたい。

(_____はユニバーサルデザインの視点)

②本時の指導

展開 (抜粋)

過程	学習内容と学習活動	支援 (○)
展開	<p>◎「健二は何に迷っているのですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大輔の不正行為について、真実を語るべきかどうか。 <p>「健二は、どうすべきだと思いますか。」</p> <p>A：先生に言う B：先生に言わない</p> <p>「そう判断した理由は何ですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 <p>・自分の名前札・付箋(理由)を黒板に貼って意思表示をする。</p> <p>「みんなの意見を聞きました。もう一度聞きます。健二はどうすべきですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表できる場合は、発表する。 ・みんなの意見を聞いた後の考えをまとめる。 	<p>○ワークシートは書きやすくわかりやすい課題とし、全員が参加し取り組めるようにする。</p> <p>○予め、記載することで、考えをまとめ、発表しやすくする。</p> <p>・ワークシートに記入することで考えをまとめ、発表の準備をします。 学-(1)-(7)</p> <p>・全員が抵抗なく取り組める付箋を使った発表を行うことで、視覚化がなされます。 例7 (P18) 情-(2)-(1)</p> <p>・互いの意見を知り、考えが変わった場合は名前札を自分で動かすことで、自分の意見を示します。 情-(3)-(1)</p>
終末	<p>☆大輔のために不正を見逃すという行為は、決して大輔のためにならないことに気づく。</p>	<p>○「公正・正義」についてワークシートに考えをまとめ、発表させる。</p>

2 展開部分の記載例

(1) 国語 小学4年「ごんぎつね」

①目標

○教科の目標

【読むこと】

・根拠となる叙述を見つけ、「ひきあわないな」と思ったごんの気持ちを読み取ることができる。

○授業のユニバーサルデザインの視点から

・前時までのごんの気持ちを関係図を使って視覚的に確認できるようにする。

・ごんの気持ちを個人で考えたり、根拠となる叙述をノートに書いたりした後にペアトーク、グループトークを入れ、全体での発表に自信をもって参加できるようにする。

②展開

(UD：ユニバーサルデザインの省略)

時配	学習内容と活動	◎UDの視点からの支援 (評価)	資料
5	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。 ○これまでの学習で読み取ってきたことを確認する。 ・会話文 ・情景 ・うなぎのいたずらをしたごん ・くりや松たけを持っていったごん ○本時は、4と5の場面(お念仏の晩)であることを確認する。	○安心して学習が進められるように単元の学習計画を提示する。 ○前時までのごんの兵十に対する気持ちを関係図から確認する。 ○単元を通してごんの気持ちを読み取ることを確認する。	学習計画表 関係図
8	○範読を聞きながら、ごんの気持ちが変わるところにサイドラインを引く。	○新出漢字、読み方が難しい漢字には読み仮名をふっておく。情-(1)-(イ)	
5	○会話文からごんの気持ちを全体で話し合う。 ・「へえ、こいつはつまらないな」 ・「ひきあわないな」	○ごんの気持ちをつぶやいた児童を褒めたり、意見を認めたりする。 学-(1)-(イ)	
3	2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お念仏の晩の「ひきあわないな」と思ったごんの気持ちを読み取ろう。</div>	○「ひきあわないな」が出てくる叙述に注目させ、叙述の中から意味を想像できるようにする。	
5	○兵十と加助の会話から、ごんがひきあわないと感じた理由を考える。 ・神様とかんちがいされてがっかりした ・おれのしたことに気づいてほしい ・ふしぎがっているけど、気づいてくれて少しうれしい ・そんなにがっかりしていない	○ごんの様子や行動がわかる挿絵を使って、場面の様子を想像しやすくする。 例 10(P21) 情-(3)-(ア) ○意見が出なかった時は、兵十と加助の会話文を児童に読ませたり、もう一度範読したりする。 ○ごんの気持ちをつぶやいた児童を褒	挿絵

学級集団作りの視点から、表出意欲を高め理解を促すことを目的に設定しています。

①個人で考える → ②ペアやグループで伝え合う → ③全体の場で伝え合うという流れで行います。

視覚情報で、本時の課題を捉えやすくしています。

本時の学習目標や活動に迫る言動を褒めることで、考えることの楽しさや自信につなげ、集中を持続させる手立てにもなります。

<p>5</p>	<p>○自分の仕業に気づいてほしいというごんの気持ちがわかる叙述を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとをつけていきました ・井戸のそばにしゃがんでいました ・かげぼうしをふみふみ ・月のいい晩なのに遊びに行かなかった <p>市販のキッチンタイマー等でも構いません。大事なことは、時間を視覚情報として示したり、音や量的に示したりすることで、終わりのタイミングを明確に伝えることです。</p>	<p>めたり、意見を認めたりする。 学-(1)-(イ)</p> <p>○ごんの表情がわかる挿絵を用意し、どんな表情をしていたか想像し、そこから気持ちを想像できるようにする。 情-(3)-(ア)</p> <p>○<u>タイムタイマー</u>を使って終わりの時間を事前に示す。 環-(2)-(ア)</p> <p>○友だちの考えの違いに気づいたり、同じ考えは賛同したりする。</p>	<p>タイム タイマ ー</p>
<p>4</p>	<p>○自分が見つけたごんの気づいてほしいという叙述をペアの友だちと伝え合う。</p> <p>子ども同士の学びあいによって、話しやすくし、思考を深めやすくします。</p>	<p>○自分の考えに自信がない児童は、<u>友だちの意見を参考にして、ノートに意見を書いてから</u>全体の話し合いに参加できるようにする。 学-(1)-(ア)</p>	
<p>7</p>	<p>○全体で話し合う。</p> <p>3 まとめをする。</p> <p>○4と5の場面のごんの気持ちを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神様とまちがえられたけど、ごんのしたことに兵十が気づいてくれるのがうれしい ・ごんはもっともっと兵十に近づきたい気持ちが高まった <p>○関係図で確認する。</p> <p>○まとめを書く。</p> <p>ごんの気持ちが高まった兵十に近づいた</p> <p>4 本時を振り返り、次時の課題を確認する。</p>	<p>○待てずに意見を言ってしまう児童には発表の順番を伝えておく。</p> <p>○児童の意見に寄り添って話し合いを進められるように配慮する。</p> <p>調根拠となる叙述を見つけ、「ひきあわないな」と思ったごんの気持ちを読み取ることができる。</p> <p>○関係図を示しながら、登場人物の心情の変化を確認する。 情-(3)-(ア)</p>	<p>関係図</p>

(2) 算数 小学3年「三角形」

①目標

○教科の目標

【数学的な考え方】

・辺の長さに着目して、三角形の分類の仕方を考えることができる。

【知識・理解】

・二等辺三角形や正三角形の意味を理解することができる。

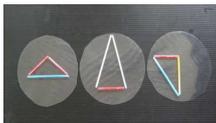
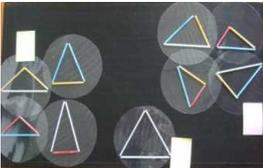
○授業のユニバーサルデザインの視点から

・色分けされたストローが長さを表していることに着目して、三角形の仲間分けをすることができる。

・ペアトークを取り入れ、自分の考えに自信をもって発表することができる。

②展開（抜粋）

（UD：ユニバーサルデザインの省略）

時配	学習内容と活動	◎UDの視点からの支援（評価）
2 10 3 15	<p>1 2年生の学習を振り返り本時の学習内容を確認する。</p> <p>2 素材をつかむ。</p> <p>3本のストローを選んで、できるだけたくさんの三角形を作ろう。</p> <p>○できるだけいろいろな形の三角形を作る。</p>  <p>○ペアの友達と作った三角形を見合う。</p> <p>○三角形を見て、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似ている形がある ・大きさが違うけど同じ形がある <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>三角形を なかま分けしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大き ・色 ・辺の長さ ・とがったもの ・平べったいもの など <p>辺の長さを色の情報として分類できるので、仲間分けが簡単にできるようになります。</p> <p>4 三角形を分類する。</p> <p>○自力解決し、同じ仲間だと思うものはまとめて置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、同じ仲間にしたのか、理由を付箋に書いて貼っておく。 	<p>◎2年生で学習した三角形の定義「3本の直線で囲まれている形」を確認する。</p> <p>◎できるだけいろいろな形の三角形を作るように助言する。 情-(3)-(I) 例 14(P25)</p> <p>○同じ形の三角形を作っている場合は、違う長さのストローを選ぶように教師が声をかける。</p> <p>◎<u>ペアの友達</u>が作った三角形を見て気づいたことを二人で話し合うように声をかける。 学-(1)-(7)</p> <p>◎児童が作った三角形の中から異なる三角形を選び黒板に掲示して考えさせる。 情-(3)-(7)</p> <p>○2年生で学習した仲間分けの活動を想起させ、仲間分けの観点を確認させる。</p> <p>◎<u>辺の長さ</u>に目を向けて三角形を分類するととよいことに気づかせ、見通しをもたせる。 情-(3)-(1)</p> <p>◎作業板を用意し、<u>仲間分け</u>がしやすいようにする。 情-(3)-(I) 例 14(P25)</p> <p>透明フィルムで固定した三角形は、形が崩れないため、操作活動が個に応じて容易に行え、思考を深めることにつながります。</p> <p>◎付箋を色分けしておくことで、仲間分けした三角形を整理しやすくする。 環-(3)-(1)</p>

(3) 家庭科 小学5年「元気な毎日と食べ物」

①目標

○教科の目標

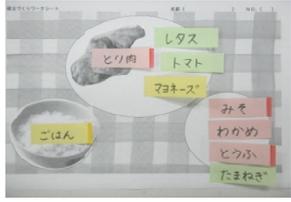
- ・ごはんのみそ汁に関心を持ち、計画をたてようとしている。
- ・ごはんのみそ汁を中心とした3つのグループの食品の組み合わせについて工夫している。

○授業のユニバーサルデザインの視点から

- ・献立の材料を5色の付せん紙を使って分類することで、栄養バランスを視覚的に捉えることができる。
- ・自分の考えた献立を班で発表することで、同じ栄養素でも様々な食品があることに気づくとともに、友達の献立を見ることで、自分に足りないものに気づき、自分の献立の材料を修正することができる。
- ・トレー型のワークシートを使うことで、一食分の献立作りに意識を向けるとともに、その中で栄養バランスをとることができる。

②展開（抜粋）

（UD：ユニバーサルデザインの省略）

時配	学習内容と活動	◎UDの視点からの支援 評価
12	<p>4 献立を修正する。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>栄養素別 食品分類表</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>食品分類表と同系色の付せん紙に食材名を書くことで栄養素を捉えやすくしています。</p> </div> <div>  </div> </div> <p>○班で見合い、はじめの献立との違いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを見せあい、自分の献立を紹介する ・栄養素がバランスよく入っているか確認をする ・たがいに意見を言い、必要に応じて修正する 	<p>◎献立の材料を5色の付せん紙を使って分類することで、栄養バランスを視覚的に捉えられるようにする。 例 14(P25) 情-(3)-(工)</p> <p>◎五大栄養素の情報を拡大することで、栄養素が同じ食品から自分の好きな食品を選択しやすくする。 情-(3)-(工)</p> <p>○班で紹介することで、自分の献立の材料の栄養素について、もう一度確認することができるようにする。</p> <p>◎自分の考えた献立を班で発表することで、同じ栄養素でも様々な食品があることに気づくことができるようにする。 学-(1)-(ア)</p> <p>評ごはんのみそ汁に関心を持ち、計画をたてようとしている。 （関心・意欲・態度）</p> <p>評ごはんのみそ汁を中心とした3つのグループの食品の組み合わせについて工夫している。 （創意工夫）</p>
13	<p>5 献立を発表する。</p> <p>○班で1つ選び、前で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立で工夫したポイントを知らせる 	<p>◎食品分類表にある材料を使って発表をすることで、食材を視覚的に捉えることができるようにする。 情-(3)-(ア)</p> <p>○発表時には、食品分類表から材料を移動し、食材のイメージをもちやすくする。</p> <p>◎友達の献立を見ることで、苦手としている食材でも他のもので栄養が補えることに気づくことができるようにする。 学-(1)-(ア)</p>

VI 学校体制での取組例

個々の教員の取組が、学校体制での取組に発展し、全教員の共通理解を図ることにより、担任が変わっても、教科で担当が変わっても、基本的な対応は変わらず、子どもたちに安心感と見通しをもたせることができます。

ここでは、学校体制の中で取り組んだ例を紹介します。

1 学年や学校全体で支援の方法を深めた実践例

(1) 校内研究の充実による多様なニーズに応じた授業づくりの検討(小学校)

校内の研究テーマに取り上げることにより、学校全体で、考え方の共通理解を図り、よりよい支援について探ることができます。

A 小学校では、ユニバーサルデザインの視点での支援を取り入れて、多様なニーズに応じる授業づくりを探ってきました。ユニバーサルデザインの視点を取り入れたポイントを明確にし、「支援内容一覧表」とも関連させながら、支援内容を探り、指導案にも明確に示しています。また、学級づくりの面では、基本的な部分については学校全体で統一を図り、子どもたちが安心して取り組むことができる状況づくりに努めています。

A 小学校での支援の視点

1 参加（活動する）のために

- ① クラス内の理解促進
- ② ルールの明確化
- ③ 刺激量の調整
- ④ 場の構造化
- ⑤ 時間の構造化

2 理解（わかる）のために

- ⑥ 焦点化
- ⑦ 展開の構造化
- ⑧ スモールステップ化
- ⑨ 視覚化
- ⑩ 身体性の活用（動作化・作業化）
- ⑪ 共有化

前面はすっきりと
子どもたちが落ち着きます



今日の日程を明確に
変更も確認できます

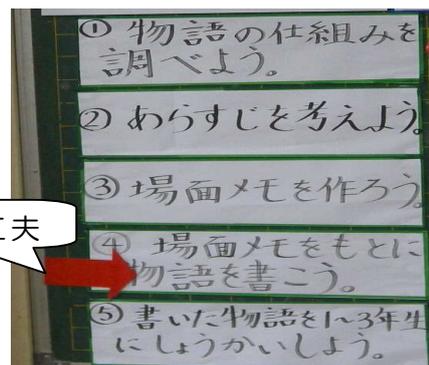


タイムタイマーの活用

年間3回の授業研究会を実施、
全教員が指導案を書き展開します。
互いの授業を見て学び合います



視覚化の工夫



(2) 学年を中心にした共通理解と支援の充実(中学校)

教科により担当が変わる中学校では、子どもが安心して授業に臨めるような環境をつくる必要があります。一学年の学級数が多くても、指導や支援のずれが起こらないようにするために、教員の共通理解は重要です。また、小学校で行われてきた基本的な支援が、中学校でも継続して行われることも、子どもたちがスムーズな中学校生活をスタートするために有効なことです。

B中学校では、大規模校であり様々な経験年数の教員がいるなかで、教員が代わっても学年が上がっても対応が変わらないように、職員会議で随時情報共有をしたり、校内研究に位置づけたりして、全ての教員の共通理解を図っています。

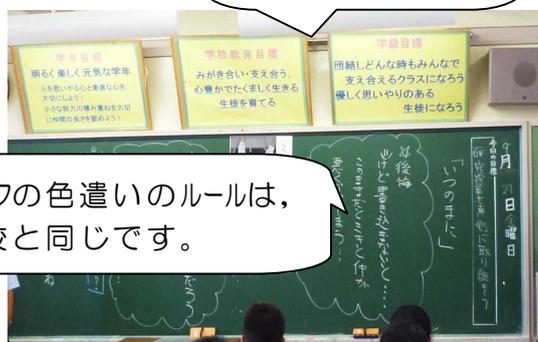
B中学校での支援例

① 学校全体で統一して実施する

- ・ 小学校での支援を継続し、チョークの使い方を統一
- ・ 教室環境の整備
- ・ 学年黒板と教室連絡黒板の活用
 - * 学年黒板に記された連絡事項を学級連絡用のミニ黒板に毎日書いています。

前面の掲示物の内容は、学校全体で統一します

チョークの色遣いのルールは、小学校と同じです。



② 学年で取り組む

- ・ 学年の個性を生かした取組の実施
- ・ 全クラスの様子を学年全職員で共有
- ・ 一人一人の子どもの居場所づくり、役割づくり

2 教員の取組を共有化した実践例

(1) 授業実践の見直しや板書計画の共有化 (高等学校)

① 授業実践の見直し

C高等学校では、校内でユニバーサルデザインについて学ぶ場(職員会議後)を設け、その後、学年会議や教科部会で、各自の実践と改善点について伝え合いました。研究協力校として関わる中で、「支援内容一覧表」について数回にわたりわかる授業と関連させ説明してきた結果、より良いものを目指して工夫しようとする姿勢も見られるようになりました。負担感なく継続して取り組まれていくためにも、教員への働きかけは大切であると感じます。

② 板書計画の共有化

個々の教員の取組を整理し、校内で共有しました。高等学校は、教科を超えて指導や支援が広がり難いことがあります。よりわかる授業に向けて工夫をするために、他の教員の取組が参考になる場合もあります。

C高等学校では、個々の教員が板書計画で工夫した点等についてまとめ、それらを、校内で共有できるよう取り組みました。

【板書のポイント】

- ① 要点を絞る重要事項を強調
- ② 例題の解答は同じレイアウト



(2) 支援の工夫の共有化（特別支援学校）

特別支援学校では、様々なニーズのある子どもたちに対して、一人一人に応じた支援が工夫されています。こうした取組を学校全体で共有することにより、さらに子どもへの指導や支援が充実すると考えます。

D特別支援学校では、「教材データベース」の作成に取り組んでいます。個々の教員が作成した教材や支援の工夫についての取組を具体的にまとめ、全教員が共有できるようにしました。その中には、通常の学級で応用できる支援も多く含まれています。



「教材データベース」
 このように各自が作成した教材や手だてをサーバ内でデータベース化して、全教員が自由に閲覧・参考にできるようにしています。

～コラム～

「教師個人の取組から学校全体での取組に広げるために」

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
 総括研究員 梅田 真理



本編で述べられているような学級づくりや授業づくりは、まず職員の共通理解の下、全校で取り組むことが重要です。なぜなら、先生方の取り組みの成果が、子ども自身の変容となって現れるまでには時間がかかるからです。半年で変容がある子どももいれば、1年、2年かかる子どももいます。変容が現れる前に取り組み方が変わってしまえば、効果は現れません。多くのことでなくてもいいですから、教師間で「大切にしたいこと」を共通理解し、そのための方法を1つか2つ具体的に決めて、全校で実施してみましょう。できるようになったら新しいものにチャレンジしていけばいいのです。この積み重ねが、それぞれの学校の「文化」となるのだと考えます。

もちろん、先生方の個性を生かした工夫も大切です。ただし、それらは共通の事項（学校の「文化」）の上にあるものでなくてはなりません。我が校の子どもたちをどう育てたいかという基盤を、しっかりとつことが重要でしょう。そのためには、管理職のリーダーシップも欠かせません。

子どもたちにとって、学校がくらしやすく学びやすい場となるように、先生方が大切だと考えていることを十分に話し合い、お互いの理解を深めていけるような教師集団を、ぜひ作っていただきたいと思います。

参考文献

- 千葉県教育委員会
「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム」 2009
千葉県教育委員会ホームページ 〈<http://www.pref.chiba.lg.jp>〉
- 千葉県総合教育センター 「授業づくりガイドブック：授業力アップ」 2010
千葉県総合教育センターホームページ 〈<http://www.ice.or.jp/nc>〉
- 千葉県総合教育センター
「通常の学級における 特別な教育的ニーズのある子どもへの支援」 2010
千葉県総合教育センターホームページ 〈<http://www.ice.or.jp/nc>〉
- 千葉県総合教育センター
「高等学校における学びを支えるための支援ガイドブック」 2012
千葉県総合教育センターホームページ 〈<http://www.ice.or.jp/nc>〉
- 千葉県総合教育センター
「授業づくりガイドブック：確かな習得を図る『教えて』考えさせる指導」 2012
千葉県総合教育センターホームページ 〈<http://www.ice.or.jp/nc>〉
- 千葉県総合教育センター 「学級づくりガイドブック」 2013
千葉県総合教育センターホームページ 〈<http://www.ice.or.jp/nc>〉
- 文部科学省 「生徒指導提要」 教育図書 2010
- 文部科学省
「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
2012 文部科学省ホームページ 〈<http://www.mext.go.jp>〉
- 佐藤慎二 「通常学級の授業ユニバーサルデザイン」 日本文化科学社 2009
- 佐藤慎二
「通常学級ユニバーサルデザイン 学級づくりのポイントと問題行動への対応」
東洋館出版社 2012

研究講師及び研究協力員一覧

(敬称略)

<講師>

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 梅田 真理 (平成24年度~26年度)

<研究協力校>

香取市立福田小学校 (平成24年度~26年度)

我孫子市立白山中学校 (平成24年度~26年度)

県立天羽高等学校 (平成24年度~26年度)

県立東金特別支援学校 (平成24年度~26年度)

<研究協力員>

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課	指導主事	風戸 正	(平成26年度)
	指導主事	上部 誠志	(平成24年度~25年度)
千葉県教育庁葛南教育事務所	指導主事	井上みどり	(平成24年度~26年度)
千葉県教育庁南房総教育事務所	指導主事	北岡 由佳	(平成26年度)
	指導主事	大野由紀子	(平成24年度~25年度)
香取市立福田小学校	教諭	萩原 一彦	(平成24年度~26年度)
睦沢町立土睦小学校	教諭	鶴澤 紀子	(平成24年度~26年度)
我孫子市立白山中学校	教諭	太田 悦子	(平成24年度~26年度)
市川市立東国分中学校	教諭	荒井 克典	(平成24年度~26年度)
県立天羽高等学校	教諭	高木 正人	(平成24年度~26年度)
県立流山おおたかの森高等学校	養護教諭	唐橋 京子	(平成24年度~26年度)
県立東金特別支援学校	教諭	山中 暢巖	(平成25年度~26年度)
	教諭	金坂 京子	(平成24年度)
県立槇の実特別支援学校	教諭	佐々木郁子	(平成24年度~26年度)

<研究委員>

千葉県総合教育センター特別支援教育部	部長	塚本 剛	(平成24, 26年度)
	部長	小林 克彦	(平成25年度)
	部長	榎本 政江	(平成25年度)
	研究指導主事	庄司 喜昭	(平成26年度)
	研究指導主事	川崎 洋子	(平成24年度~26年度)
	研究指導主事	深山 博典	(平成26年度)
	研究指導主事	青木ゆかり	(平成26年度)
	研究指導主事	相川利江子	(平成24年度~25年度)
	研究指導主事	井上 昌士	(平成25年度)
	研究指導主事	千田 茂	(平成24年度~26年度)
	指導主事	藺牟田 明	(平成24年度)

*所属・職名は当該年度当時

<イラスト> 県立槇の実特別支援学校 教諭 永田 菫子

ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ
どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集
平成27年3月

発行：千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2-1-3

TEL 043-276-1166 FAX 043-272-5128

HPアドレス <http://www.ice.or.jp/nc>

*なお、このヒント集に関するお問い合わせは、特別支援教育部あてにお願いします。
(TEL043-207-6023)



みんなで取り組む
千葉の教育

